

J トラスト株式会社**第 42 回定時株主総会 質疑応答要旨**

当社株主総会における株主様からの主なご質問とご回答の要旨です。

Q	今後の株価について
A	直近に、インドネシアのマルチファイナンス会社やカンボジアの銀行の取得が合意に至り、東南アジアにおけるリテール事業を拡大していく足掛かりが出来ました。今後は組織体制を整えていきながら業績を伸ばし、株価向上を図っていく所存です。
Q	Group Lease 社との事案の見通しについて
A	係争中の事案であり、弁護士の指示もあり、コメントは控えさせていただきたく存じます。引き続き、当社及びステークホルダーの利益の最大化にむけて、最大限の努力を続けていく所存です。
Q	海外不動産購入資金ローン保証事業のセグメントについて
A	日本保証が業務を行っており国内金融事業となります。
Q	新任取締役候補（山中氏）について
A	証券アナリストとして金融機関の経験が長く、投資家側の考え方を理解している方で、また、外部の方としては弊社を一番理解している方です。今後 IR 活動を強化していく上で適任であると判断しております。
Q	役員の株式保有状況について
A	常勤取締役のうち、2名が3月末現在株式を保有しておりませんでした。現時点では両取締役とも株式を保有しております。両取締役は他の取締役より会社情報を知り得る立場に在るため、取得には慎重を期しておりました。
Q	アドアーズ株式の売却理由と売却資金の用途について
A	当社としては、アドアーズの事業については引き続き厳しい状況が続くものと思料し、同業者に購入されることで同社の事業にとってもプラスになるのではないかと考え、売却しております。売却資金は、KeyHolder が今後計画しているライブ・エンターテインメント事業に投資していく予定です。

Q	株主優待である楽天ポイントの採用理由と対象株主について
A	当社と楽天は従来から取引関係があり、また同社グループの証券会社を通じて株主優待を広げて頂けること等を総合的に判断し、楽天ポイントを採用しております。また、優待付与は6月と12月末時点の株主様ですが、3月と9月末における配当と併せて、年間を通じた株主様への還元が可能となり、安定的に弊社株式を保有いただけるのではないかと考えております。

Q	2019年3月期の業績予測について
A	提携先の状況の影響等があり、2018年3月期の実績は、昨年5月に公表した予測値と乖離した結果となりました。2019年3月期の業績予測につきましては、これを反省材料として予測値を算定しております。

Q	今後のM&Aや資金調達について
A	近時では、インドネシアやカンボジアでM&Aを実行しました。まずは業績をしっかりとあげて、手元資金を基本として最大限の成果を図ってまいる所存ですが、M&Aの案件次第で、資金調達の方法は検討してまいります。

Q	グループの情報管理体制について
A	現状の情報管理体制を所与とせず、当体制に影響を及ぼす事象があれば、その都度必要に応じて体制の見直しを図っていく所存です。

Q	国際会計基準(IFRS)と日本基準での業績数値の差異について
A	2017年3月期や2018年3月期における主な相違点ですが、IFRSでは売却したアドアーズのPLを非継続事業として、継続事業のPLから区分していること、また、のれんの償却の有無、貸倒引当金の算定方法等により、営業収益や各種利益に差異が生じております。

Q	保証を行う際の審査基準について
A	保証事業については、厳しい審査基準の下で、また、取り扱う物件についてもエリア等厳選して慎重に事業運営を行っております。

Q	Group Lease社との提携に関する担当役員の責任について
A	当社グループは過去様々な失敗を繰り返しながらここまで成長しておりますが、Group Lease社については社長である私が責任を十分感じております。まずは、当社及びステークホルダーの利益の最大化にむけて、最大限の努力を続けていくことで責任を果たしていく所存です。

以上